



「わたしが死ぬこと、どう思ってるの？」 ～ドキュメンタリー映画

「100万回生きたねこ」 を撮って～



「100万回生きたねこ」 佐野洋子/作・絵 講談社

講師:小谷忠典(映画監督)

『100万回生きたねこ』で知られる絵本作家・エッセイスト佐野洋子さん。2010年に亡くなるまでの最晩年の肉声と息づかいを、映画監督小谷忠典氏が記録し、「ドキュメンタリー映画100万回生きたねこ」を製作されました。小谷忠典監督に、撮影にあたってのエピソードや、絵本作家佐野洋子さんとの思い出について語っていただきます。

**入場
無料**

平成25年4/27(土)

14:00～15:30

大阪市立中央図書館

5階大会議室 定員:300名
(当日先着)

お問い合わせは・・・
大阪市立中央図書館
〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2
電話:06-6539-3326



講師プロフィール:小谷忠典(こたに ただすけ)

映画監督。1977年生まれ。大阪出身。在学中より、監督した自主映画が数々の映画祭で注目をあびる。監督作品に『子守唄』(2002年)、『いいこ。』(2005年)、『LINE』(2008年)など。

『ドキュメンタリー映画 100万回生きたねこ』は第17回釜山国際映画祭(韓国)、第30回トリノ国際映画祭(イタリア)、第9回ドバイ国際映画祭(UAE)で入選。

映画の公式サイト→<http://www.100neko.jp/index.html>

佐野洋子(さの ようこ)

絵本作家・エッセイスト。1938年北京生まれ。武蔵野美術大学卒。デザイン、イラストレーションの仕事を手がけながら、絵本作家としてデビュー。代表作「100万回生きたねこ」は人生や愛について読者に深い感動を与える絵本として子供から大人まで親しまれている。他に「おじさんのかさ」(サンケイ児童出版文化賞)「だってだつてのおばあさん」「わたしのぼうし」(講談社出版文化賞)など多数。エッセイでは「わたしが妹だったとき」「シズコさん」「神も仏もありませぬ」(小林秀雄賞)など。2003年紫授褒章受章。2010

『100万回生きたねこ』 佐野洋子 作/絵(講談社)

1977年発行。累計部数180万部を超え、刊行35年を経てなお、世界中で愛されている絵本。

<あらすじ>主人公である猫は、飼い主が大嫌い。さまざまな飼い主のもとでさまざまな生き方をしたが、そのたびに死んでしまつてまた生まれ変わって、を100万回もくり返している。ある時、「だれのものでもない」野良猫に生まれ変わり、一匹の白猫に出会う。初めて自分以外を好きになった猫は、恋をし、家族を成し、年老いていく。やがて、愛する白猫に先立たれたとき、猫は……。



“子ども読書の日”とは？

平成12(2000)年に政官民の協力で実施された「子ども読書年」。この流れを受けて、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、毎年4月23日が“子ども読書の日”と定められました。また、国と自治体には子どもの読書推進に関する施策の策定・実施の責務を有することが明記されました。

大阪市では平成17年度策定の「大阪市子ども読書活動推進計画」により、すべての子どもが、さまざまな機会と場所において、生き生きと読書を楽しむことができるよう、読書環境の整備・充実を図っています。

大阪市立図書館では、子どもたちが図書館に親しみ、本を読む楽しさにふれられるよう、また、子どもの読書活動の推進について市民のみなさんに広く知っていただくため

4月20日(土)～4月29日(月・祝)の期間「子ども読書の日記念イベント」を開催します。

絵本の読み聞かせや、工作教室など、いずれも無料の催しです。

ぜひ、お近くの図書館へお出かけください。



子ども読書の日 大阪市

検索

<http://www.oml.city.osaka.jp>